

みんなと学ぶ 理科・生活

き せ つ
季節と

生きもの

はる

春

春

夏

秋

冬

教科との関連

理科 3年「しぜんのかんさつ」

4年「季節と生き物」

生活 「あそびにいこうよ」

教授用資料

本資料は、「教科書発行者行動規範」に則ったものです。

春の花と果実を楽しもう！



学校図書株式会社

植物観察は、季節を問わずいつでも行えますが、やはり春の楽しさは格別です。
とにかく多くの花が咲くので、それらを見ているだけで大忙し。さらに、5月頃になると、
早春に咲いた花がはやくも果実に変わっているの、種子の観察まで出来てしまいます。
観察テーマだらけの季節です。
今回も、身近な環境で楽しめる春の植物を紹介しますので、ぜひ近くでたのしんでください。



① 身近な草花を見分けよう

形
に注目！

植物観察の基本は、名前を知ることです。そこでまず意識してもらいたいのが「形に注目する」こと。植物は、種類によって花や葉の形に個性があるので、見るポイントを明確にすれば、名前を知ることこそまで難しいことはありません。

校庭などでも見られる草で、形をヒントにすると探しやすい植物をいくつか紹介しますので、まずはこのあたりから探してみてください。

ノボロギク

栄養の少なそうな場所でもよく生えています。葉がジグザグした形をしていることがよい目印になります。遠くからだと、花はまだつぼみの状態に見えるかもしれませんが、近付いてみれば、じつは小さな花がたくさん咲いていることが分かります。



葉が
ジグザグ



ジグザグ

ノボロギクの葉



小さい花がたくさん

ノボロギクの花

キュウリゲサ

ルーペを使う必要がありますが、水色の花の中心に黄色いリングがついていてとってもおしゃれな草です。茎の先端につぼみが多くつき、クルクルと巻いているところも特徴的。



キュウリゲサのつぼみと花

形

虫

実

葉

オオイヌノフグリ

すかっと晴れた空のような青い花。横から見ると、おしべが2本でめしべが1本あることが分かります。



オオイヌノフグリの花

オランダミミナグサ

毛深い葉が特徴。フサフサして気持ちいいので、触って確かめてください。



似

ホトケノザ

紫色の花が上向きにぴょんと飛び上がるようにして咲きます。葉と葉の間にすき間があるので、茎がよく見えることも見分けポイント。



上向きに
ぴょん

ぴょん



似

ヒメオドリコソウ

花だけ見るとホトケノザに似ていますが、こちらは葉に隠れるようにして花の頭だけのぞいているので、しっかり見ればちがいが分かります。上から見ると、葉が十字に重なるようにして出ています。

葉に隠れて
花の頭が
のぞいてる

ちよん



葉が十字に
重なっている



似

カラスノエンドウ (ヤハズエンドウ)



赤紫色の花が咲きます。正面から見ると、羽をひろげた蝶のような形をしています。これはマメ科でよくみられる花の形です。

羽をひろげた
蝶みたい



大きなカラス

カラスノエンドウの花

似

スズメノエンドウ



カラスノエンドウよりもずっと小さいですが、同じマメ科です。ですので、花を拡大して見れば、やはり蝶の形をしています。

大きなカラスに、小さなスズメで覚えてください。

小さいけど同じマメ科
蝶のような形



小さなスズメ

スズメノエンドウの花

形

虫

実

葉

コハコベ

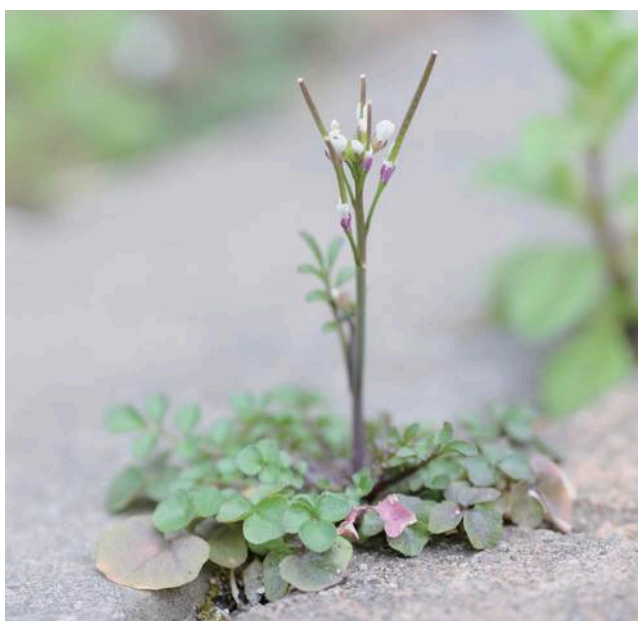
花びらが10枚あるように見えますが、よく見ると、深い切れ込みが入った花びらが5枚であることが分かります。とにかく細かく見るのがポイントです。



コハコベの花びら（1枚）

ミチタネツケバナ

花が咲いたらすぐに果実が変わっていくので、花と細長い果実が同時に見られるという特徴があります。果実がバンザイしている様子が可愛らしいです。



春の草花はほかにもたくさんあるので、ここですべてを紹介することはとてもできません。ですので、あとは図鑑を使って探してみてください。図鑑には「形の特徴」が書かれていますので、実物と見合わせながら名前を調べてみてください。



② 虫との 関係を 観察しよう

名前を知ったら、次はぜひ生態観察に進んでください。おすすめのテーマは、「虫との関係」を観察することです。なぜなら、虫は花の蜜を集め、花は虫に花粉を運んでもらうというように、虫と花はお互いに関係し合いながら生きているからです。どのようなイメージで観察を進めればいいのか、4月～5月にかけてよく咲くツツジの仲間で紹介します。



形

虫

実

葉

虫の 動き を見る！

ツツジの仲間を見ていると、よく虫がやってきます。その動きを見ていると、花の特定の場所に顔を突っ込んでいるのが分かります。ツツジの花の上部には濃い点々の模様がついていて、どうやらそこに集中しているようです。



次に 花 を見る！



虫が集中していた部分には、なにか秘密があるはずです。花を開いてみると、模様がついている部分には溝があり、その下の方に蜜がたまっていることが分かります。虫は、この蜜を求めてやってきていたようです。花の点々模様は、虫に対して、蜜の在処を知らせるための効果があるようです。

花につく、このような模様のことを「ネクターガイド」と呼びます。ほかの花でも見られますので、意識して探してみてください。

花粉 を見る！

今度は、おしべの先端をルーペで拡大して見ると、白い粒々を見つけることができます。これが花粉です。細い棒で触れると、花粉がずるずると連なって出てくる仕組みになっていることが分かります。花の蜜を集めに来た虫には、知らないうちにこの花粉の連なりが身体にくっつきます。そのまま他の花へ移動すれば、ちがう花の雌しべの先端に花粉がくつき、受粉が行われます。

サツキ



脚に花粉がついている



このように、虫の動きを観察しながら、花のつくりを確かめていくと、花の生態が見えてきます。この花にはどんな工夫があるのかな？と興味を持ち、楽しみながら観察をしてみたいです。

③ はやくも実になっている草の観察をしよう

3月頃に咲いた花のいくつかは、4月～5月頃にはもう果実が変わっています。ですので、春でも果実と種子の観察をすることができます。この季節では意外と見落としがちなテーマですので、これもまた、楽しんでいただきたいと思います。



飛ぶ 種子

4月～5月頃に果実になる草には、種子を自らポンポンと飛ばすものがあります。

カラスノエンドウ（ヤハズエンドウ）

黒く熟した果実を指でつまむと、乾燥したさやがパチンとはじけて、その反動で種子が飛び出していきます。



カタバミの仲間

緑色に熟した果実を指でつまむと、なかに入っていた種子の皮がぐるっと反転するように勢よくめくれます。その反動で種子が飛んでいきます。



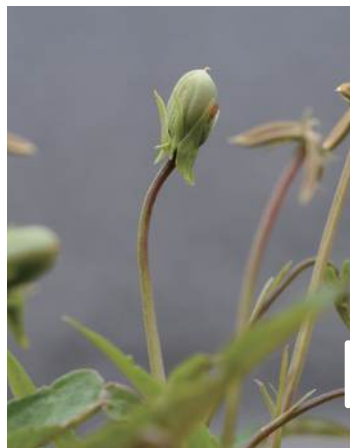
アメリカフウロ

細長い塔のような形の果実の根本に膨らみがあり、乾燥すると素早く跳ね上がるようにしてはじけます。その勢いで、なかに入っていた種子が飛び出していきます。



スミレの仲間

上向きに熟した果実が、晴れた日の午前中に3つに開きます。開いた果実は次第に乾燥し、なかの種子を圧迫するので、その力で種子が飛びだしていきます。



形

虫

実

葉

虫に
運ばれる
種子

ホトケノザの種子には、「**エライオソーム**」と呼ばれる白い物質がくっついてます。これには、アリが好む脂肪酸が含まれているので、種子を地面においておくと、アリがやってくるのを観察することができます。

アリは、エライオソームを種子ごと運んでいき、巣の中で取り外して食料にします。残った種子そのものは巣の外に出されるので、その環境がホトケノザに適していれば、そこで芽生えることができます。

よく、ホトケノザは壁のすき間などから生えていることがありますが、そういうものはもしかしたらアリが種子を運んだ結果なのかもしれません。

ホトケノザ



やってみよう



難しそうに思えるかもしれませんが、実際にやってみるとアリはすぐにやってくるので、小学校低学年向けの観察会でも盛り上がる観察です。

ホトケノザのほか、ヒメオドリコソウ、スミレ、ムラサキケマンなど、様々な植物の種子にエライオソームはついていますので、いろんな草でためしてみてください。



④ 葉っぱを観察してみよう（花外蜜腺）

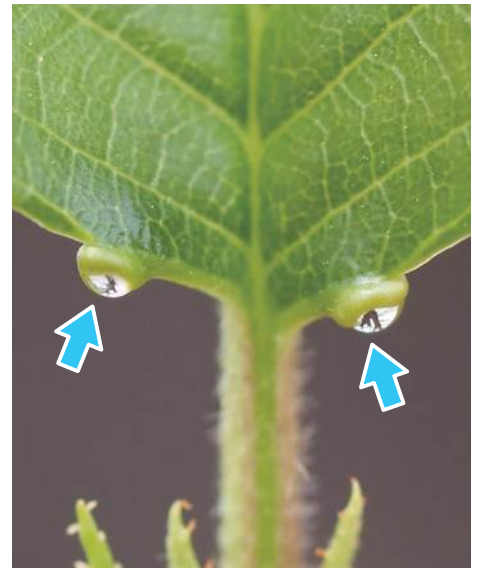
ここまで、花や果実、種子の観察を紹介してきました。余裕があれば、葉の観察もしてみてください。たとえば、3月～4月に咲くソメイヨシノの花は、多くの人が毎年開花を楽しみにしていますが、花が散った後にも観察をする人は少ないものです。ところが、じつはソメイヨシノの葉にはおもしろい特徴があるのです。4月中下旬になったら、葉を見に行ってみてください。

ソメイヨシノの葉には、付け根にちょこんと突起がついています。午前中に見に行くと、ここからは水滴が出てきています。なめてみると甘いので、蜜が出ているのだと分かります。



蜜といえば、花のなかにあるものというイメージが強いですが、じつは花以外の場所からも蜜が出ることがあります。こうしたものは、花の外にある蜜が出る場所という意味で、「花外蜜腺（かがいみつせん）」と呼ばれます。

ソメイヨシノ



花外蜜腺には、アリがよくやってきて、蜜を集めていきます。この際、アリは近くにいる他の虫を追い払う傾向があります。結果的に、ソメイヨシノに害を与えるような虫をアリが追い払ってくれる効果があるのではないかとされています。本当にどれくらい効果があるのかは分かりませんが、観察していると、たしかにアリはほかの虫を追い払うので、ある程度の効果はありそうです。



花外蜜腺は、カラスノエンドウやイタドリ、アカメガシワ、授業でも扱うような栽培植物ではハウセンカなどでも見られます。花外蜜腺の場所は、見ればすぐに分かります。アリが集中している場所を探せばいいからです。

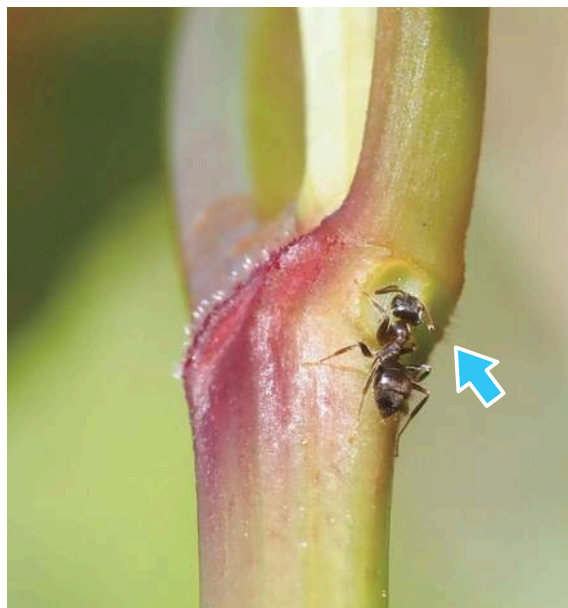
カラスノエンドウ

葉や花の付け根に花外蜜腺があります。



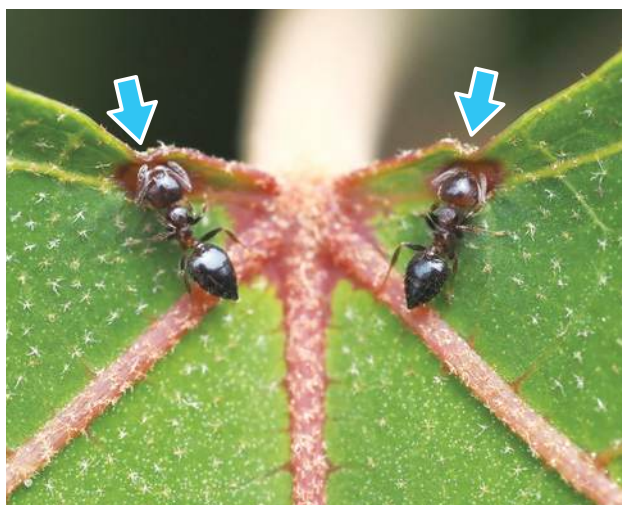
イタドリ

茎の途中に花外蜜腺があります。



アカメガシワ

葉の付け根に花外蜜腺があります。



ホウセンカ

葉の軸の途中に花外蜜腺があります。



春は観察テーマが多いので、いくらでも観察を楽しむことができます。

花を見るのはもちろんのこと、果実や葉の観察まで、様々に興味を広げていながら観察してみてください。



2026 年 4 月発行

発 行 学校図書株式会社

〒101-0063

東京都千代田区神田淡路町 2 丁目 23 番地 1

TEL:03-6285-2916

URL:<https://gakuto.co.jp>



すずき じゅん

鈴木 純 (執筆・写真)

植物観察家。まち専門の植物ガイドとして、都市環境をフィールドとした植物観察会を数多く実施している。主な著書に『そんなふうには生きていたのね まちの植物のせかい』（雷鳥社）『シロツメクサはともだち』（プロンズ新社）『身近な草の生き方観察 12 か月』『身近な樹木の生き方観察 12 か月』（文一総合出版）『冬芽ファイル帳』（小学館）『子どもかんさつ帖』（アノニマ・スタジオ）など。東京農業大学非常勤講師。

